研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		21-305	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Role of ellagic acid for the prevention and treatment of liver diseases
エラグ酸の肝疾患の予防と治療における役割

執筆者

Venkatasubramanian Aishwarya [1], Solairaja Solaipriya [2], Venkatabalasubramanian Sivaramakrishnan [1]

掲載誌

Phytother Res. 2021 Jun;35(6):2925-2944. doi: 10.1002/ptr.7001.

キーワード	PMID
エラグ酸、肝星細胞、肝線維化、分子機構、新規分子体	33368795

要　旨

世界的に、憂慮すべき問題のひとつに、年間 200 万人の患者を占める肝臓疾患の蔓延と負担がある。肝炎感染症、アルコール性・非アルコール性肝疾患、環境因子、薬剤性毒性などの慢性的肝臓病の病因は、必ず肝線維化を進行させ、最終的に肝細胞がんに至らせる原因となっている。現在の治療法は、肝疾患を克服し、治癒させることはない。新たな知見は、広範な薬理学的特性を持つエラグ酸のようなエビデンスに基づく補完医学を用いることへの研究者の関心を示唆している。抗酸化作用、抗炎症作用、抗高脂血症作用、抗ウイルス作用、抗血管新生作用、抗がん作用などである。エラグ酸が発揮する分子機能は、フリーラジカルの消去、脂質代謝の調節、線維形成応答タンパク質の阻害、肝星細胞および筋線維芽細胞の抑制、肝ウイルス複製の抑制、成長因子の抑制の促進、転写因子、炎症性サイトカインの調節、肝臓免疫反応の増強、アポトーシス促進、腫瘍性細胞の細胞増殖の阻害などである。本総説では、肝疾患予防におけるエラグ酸の将来的な役割を保証するために、現在入手可能な証拠に基づく前臨床および臨床情報に最も注目する。